

## 会議録

会議の名称	平成26年度 第2回所沢市学び創造プラン推進委員会
開催日時	平成27年2月17日(火)午後3時53分～午後4時43分
開催場所	所沢市立教育センター セミナーホール
出席者の氏名	〔委員〕赤堀侃司白鷗大学教育学部長・教授、中村隆小学校長会長、酒井通中学校長会長、廣田美由紀健康づくり支援課栄養士、橋本浩志社会教育課主査、野澤和也スポーツ振興課副主幹、田中和子所沢図書館主査、杉本恵美保健給食課主査、宮下広子子ども会育成会代表、北田憲一市スポーツ少年団代表、小出敦子NPO子ども大学ところざわ代表理事、大寄尚子所沢第二幼稚園長、鈴木恵小学校主幹教諭、阿部英貴中学校教諭
欠席者の氏名	木村良孝小学校PTA代表、島田高志中学校PTA代表
議題	1 報告及び協議 (1) 今年度の取組について (2) 今年度の成果と課題について
会議資料	1 平成26年度 所沢市学び創造プラン学力向上推進事業 研究委託校研究報告書 2 第2回学び創造プラン推進委員会 協議資料 3 学び創造プラン学力向上推進事業に係る進捗状況調査の結果概要について
担当部課名	学校教育課 電話04(2998)9238 出席者 内藤隆行教育長、川音孝夫学校教育部長、山口勝彦学校教育部次長兼学校教育課長、沼田芳行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、出居正之学校教育課副主幹、日下宏之学校教育課指導主事、熊本純利学校教育課指導主事、小山義昭学校教育課指導主事、佐藤佳岳学校教育課指導主事、本間博学校教育課指導主事、大館直美教育センター指導主事

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	<b>開会</b>
司 会	進行は事務局の日下が担当する。平成 26 年度第 2 回所沢市学び創造プラン推進委員会を開会する。
司 会	委員長よりあいさつをお願いします。
委員長	先ほどの会では、いろいろな発表を聞く中で、様々な取組があることがわかった。また、どのように子どもに主体的に学ばせるか、そのためのいろいろな手立てがあることがわかった。例えば、ユニバーサルデザインや自分の言葉で構造化させる等、できればこれをマップのような形にまとめてもらえたらわかりやすいと思う。いろいろなヒントやアイデアが盛りされているという点で勉強になった。アプローチの仕方も様々で、ユニバーサルデザインやルーブリックのような客観的な評価法を使うこと、家庭との連携を深めた基礎基本の定着、ノート指導や教材教具の工夫などがあった。できれば構造化して他の学校へ伝えられるようにしていくとよい。
司 会	続いて、教育長よりあいさつをする。
教育長	研究委託校の発表を聞き、大変嬉しかったことは、各学校が熱心に取り組んでくれたことである。委員長から話があったように、今後まとめ方については限られた時間ではあるが、工夫が必要である。また、「気づいた時に写真を撮りたいと思うことが、記憶の引き金になる」という話が印象的だった。体験したり、感動したりする中で気づくことがある。そのきっかけになったものが興味関心のはじまりとなることは実感している。感心したのは、自己肯定感について研究した学校である。その学校は、学力をはじめ様々な課題を、児童の自己肯定感について分析し、切り込んだ取組を行ったことに対し、非常にありがたいと思った。これから事務局からの説明があり、情報提供を踏まえた上で、意見を頂くことになるので、御協力をお願いしたい。
司 会	これから今年度の取組について、事務局より報告する。
事務局	<p>学び創造プランは、主体的に学ぶ子どもの育成を目指し、その手立てとして、学校・家庭・地域が一体となって、学力向上に向けた 3 つの目標を踏まえた取組を進めてきた。今年度は、学校部会、家庭・地域部会の部会別会議を設定し、事業の充実に向け、進捗状況を確認した。</p> <p>学校部会では、学校スタンダード研究校 16 校、学校クリエイイト研究校 5 校から、校内で主として研究の中心となる教員が集まり、協議を深めた。協議の中心は、今年度、学校の取組に加えられた『児童生徒の言葉で学習のまとめをする』であった。学校部会で出された意見は、『まとめにつながるめあての提示が重要である』『児童生徒の言葉で学習のまとめをするには、授業の中に、子どもが意見を出し合うこと、そして、その意見を比べ合い、まとめにつなげるなど、授業の構造化が必要である』『学び合いを柱とし、思考力・表現力を伸ばし、まとめにつなげる』などである。当日は、埼玉大学の二宮裕之教授に参加いただいた。二宮氏は、教育センターにおける『思考</p>

力・表現力の育成を目指した言語活動の充実と課題提示・学習のまとめ』の研修に関わっておられ、当日の協議終了後に指導・講評をいただいた。そこで話された内容は、『自ら勉強しようと思うことで成果が上がる』『授業で習得したことをまとめることで、次の学習がスタートすること』『表現することで、理解が深まること。例えばまとめを保護者につたえてみよう』などであった。また、授業のふりかえりとまとめを分けた実践例についても、お話をいただいた。

次に、昨年12月から今年の1月にかけて、市内の全小中学校に協力いただいた、学び創造プラン進捗状況調査の結果についてである。

学び改善プロジェクトから引き続けている『1時間の学習目標の提示』については、『概ね達成できている』が、小中学校10ポイント以上伸びる結果であった。考えを引き出す発問の工夫については、『概ね達成できている』が、中学校でかなり伸びたが、全体的にまだ課題が残る結果であった。児童生徒の言葉で学習のまとめをするについては、『概ね達成できている』が小中学校、共に50%程度であり、今後、具体的な取組を、市で共有していく必要があると考える。

しかし、研究委託校からは、子どもの主体的な学びを育成する取組として、『思考力・判断力・表現力を深める学び合い』『学び合いからまとめにつながる実践』『ふり返しからまとめにつながる実践』等も報告されている。この後の協議では、『児童生徒の言葉で学習のまとめをする』手立てについて、意見を伺いたい。

家庭地域部会では、社会教育課、保健給食課、所沢図書館、学校教育課、それぞれの立場で、生活習慣の見直しや地域の教育力を生かした体験活動の充実に向けた取組について協議した。具体的には、家庭に向けての啓発の方法として、ポスターの作成と、ノーメディアチャレンジの内容についての検討を行った。ポスターについては、「早寝・早起き・朝ごはん」と「うちどく」の啓発ポスターを、各学校やまちづくりセンターなどに配布・掲示させていただいた。「ノーメディア」「早寝・早起き・朝ごはん」チャレンジについては、家庭で一緒に考えたり取り組んだりできるように、チャレンジシートの内容を検討した。以前から特に課題であったノーメディアで生み出した時間をどう使うかということに関しては、「うちどく」と「家庭学習の時間」に焦点をあて、有意義な時間として活用できるようなシートに変更した。

ノーメディアへの取組状況は、「毎日できた」「ほとんどできた」の割合として小学校59.4%、中学校67.0%だった。生み出された時間を家庭学習にあてた子どもは7割を超えている。しかし、家読にあてる宣言をして、できた子どもは約4割しかいなかった。毎月9のつく日は「Do9 書の日」(どくしょのひ)として家庭に呼びかけるといった工夫をしている学校があるそうだが、家読に関しては、まだ課題であると捉えてもよいのではないか。

早寝・早起き・朝ごはんの取組については、寝る時間起きる時間は個々に違いがあるが、目標とする時間に寝起きできた割合は、「寝」70%、「起き」が77%である。また、小中学校とも95%以上が朝ごはんを食べていると答えており、好結果となっている。

地域に向けては、あいさつ運動の実施と地域体験活動への参加を充実させることをリーフレットで呼びかけた。所沢では以前から安全安心な学校と地域づくり本・支部会議で地域行事への子どもの参加を啓発していることもあり、多くの子どもたちが地域の行事に参加している。例えば、中学生では祭りの際にやぐら組みなどの会場準備や運営の手伝いをしたり、地区運動会で役員を務めたりしているという報告もあり、地域の一員として、地域を担う活動をしている様子が伺える。

こうした子どもたちの地域行事への参加に対して、成果が報告されている。今後も地域の教育力を生かして体験活動を充実させていただきたい。

なお、社会教育課では、家庭教育のリーフレット「ちっとらっつ」に、学び創造プランに関する記事を掲載し、全小中学校で配布した。

司 会	事務局の報告を終了する。
司 会	ここからの進行については、委員長にお願いする。
委員長	<p>承知した。本日の「スタンダード研究発表校」の報告後に、委員長、副委員長、及び事務局で調整会議を開き、3校を選んだ。選考については、学び創造プランでの学校の取組である「1時間の学習目標の提示」や「考える発問の工夫」「児童生徒の言葉で学習のまとめをする」を実践し、特に成果が見られた学校を選んだ。</p> <p>小学校の1校目は若松小学校である。若松小学校はユニバーサルデザイン等の方法を取り入れ、ノート指導や自分の考えを表現できる手立てとして具体的な方法を提案していたからである。2校目は宮前小学校である。学校における授業改善、家庭への働きかけ、地域の教育力の活用の手立てが明確であった。特に「うちどく」についての取組やデータがあり、実践されていることが推薦理由である。</p> <p>中学校については、南陵中学校である。南陵中学校は、わかる喜びを味わえる授業を創造するために、ユニバーサルデザインの12の視点を取り入れ、教員間で共有し、生徒のアンケートも丁寧に出されていたからである。</p> <p>この3校は2月21日に行われる研究発表会で、その実践をクリエイト研究校5校とともに発表していただくよう学校に依頼したい。この3校でよろしいか、承認される方は拍手をお願いする。</p>
委 員	拍手多数
委員長	ありがとうございます。事務局からこの3校に依頼していただく。
委員長	<p>今年度の取組の成果と課題について、意見をいただきたい。事務局からは今年度の成果についての報告があったが、課題もいくつか出された。学校における「児童生徒の言葉で学習のまとめをする」ということである。ただ聞きっぱなしではなくて、自分の頭で構造化するということである。人間の体でいえば内臓もあれば心臓やいろいろな部位がある。それらが有機的につながっているから人間の体ができるわけである。同じように、自分の言葉で構造化しないと自分のものにはならないということだと思う。どうやればつなげられるのか、指導の方法、手立てについて考えていきたい。</p> <p>次に「家読(うちどく)」についてである。若干取組が弱いようである。この実践をどうするかということである。</p> <p>この2つについて、時間の都合上、協議を2点に絞らせていただく。どちらかを選択していただき、意見をいただきたい。</p> <p>まずは、学校における「児童生徒の言葉で学習のまとめをする」について現状等いかがか。</p>
委 員	いくつか段階があるので、めあてからわかったことを自分の言葉でまとめるということが出来る子は、能力の高い子であると思う。穴埋め式にする等、ある程度の段階をつくってまとめるようにしている。その時間、子どもが「おもしろい」と思わないと、子どもが「わかった」にならない。

委員長	ありがとう。他の委員はいかがか。
委員	中学校でも生徒の理解度は様々である。理解が難しい生徒については、まとめをする際に拠り所をどこかに求める傾向がある。そのような生徒には、必ずまとめにつながられるような拠り所が必要である。また、「学び合い」という発表があった中で、理解力が高い生徒が、理解が難しい生徒に教えるという取組も中学校では見られる。
委員長	今の発言について、いかがか。
委員	<p>「自分の言葉でまとめる」と「児童生徒の言葉でまとめる」については、私はこのように捉えている。</p> <p>小学校では、「子どもの言葉で」という形でまとめを行っているが、学力の高い子は、確かに自分の言葉で文をつくりまとめていけるが、自分の言葉でまとめることができない子どもたちについては、「自分の言葉」ということが難しい。先ほどあった穴埋め式にして、ここに言葉を入れてみようということで、授業の中で話題になったこと、その中からまとめをつくっていくという作業を各学校で取り組んでいるところである。そこには、学ぶ楽しさがあったり、意欲が高まったりしていること、また、ノート整理がしっかりしていることの中で、上手くまとめにつながっていくと考える。学ぶ楽しさとノート整理等はきちんと指導していかなくてはいけないと思っている。</p>
委員長	ありがとう。他の委員からもコメントをいただく。
委員	<p>本年度の研究の中で、21世紀スキルということで、ジグソー法のような教え合う学習形態が入ってきていると思う。そういったものをすることによって、確かにおもしろいと思うことが第一だが、やらなくてはいけないという義務感というものが後押しできるような指導法を取り入れたらどうかと考えている。先ほど「段階」ということが話にあがったが、子どもたちに体験や現象を自分の言葉で表現させるのは難しいものがある。「話型」という話が先ほど出たが、「言語カード」を使うという実践もある。例えば「なぜなら」「だから」「まず」「次に」のような接続語をカードで用意してあげることによって、自分たちの言葉でまとめやすくなるというものである。そのような研究を見る機会があったので、そういったものもヒントになるのではと思った。</p>
委員長	なるほど。わかりました。他の委員で「自分の言葉でまとめていく」という取組があったらお願いしたい。
委員	<p>活動の中で、グループで活動させることが多い。今回の発表を聞いていても、今までの教育だと学校の先生方から一方的に教えてもらうというよりも、いろいろなグループ単位で研究を重ねたり、意見を出し合ったりというような学習活動も多かったのではないか。我々も、大きいグループになってしまうと中心になる子は意見を言うし、聞く側になってしまう子は何も言えなくなってしまう。これを遊びのグループを小さくすれば、引っ込み思案な子でも意見が言いやすくなる。スポーツを行う場合でも、できるだけ少人数のグループをたくさん作り活動している。その中にリーダーも出</p>

	てくれば、一緒になって補佐する子も出てくる。普段話さない子でも、自動的に話す機会が増える。今後も少人数単位で課題を持たせて勉強するような活動が増えると、積極性も出てくるのではないかと感じる。
委員長	ありがとう。他の委員はいかがか。
委員	発表の中で「自分の言葉でまとめる」「子どもたちの言葉でまとめる」ということが印象的だった。また、「学び合う」というものが話の中でひっかかっていた。学び合うというのは、自分の言葉でまとめることができる、理解することができるから他人に伝えることができる力が子どもの中にあるということである。同じ友達が言った言葉を理解する力があるということは、コミュニケーション能力が高まってきたということで、そのような意味で「学び合う」ということを私なりに理解している。ただ、保護者の考え方によると、リトルティーチャーという言葉があったが、子どもたちの「学び合い」に対して批判的な保護者がいるのも事実である。あるアンケートでも実際にいただいた言葉である。しかしながら、「学び合い」というものは、大切で、重要なことだと私は思っているので、できたら先生方から、正しく保護者の方に知らせていただき、子どもたちの力を信じて伸ばしてあげるような方向で進めていただけると、もっともこの学び創造プランで言っていることが地に足がついた形になると思ひ、今日は聞いていた。
委員長	ありがとう。他の委員で「学び合い」や「児童生徒の言葉でまとめる」ということに対していかがか。
委員	子どもたちが遊びや生活の中で、楽しかったことやおもしろかったこと、いやだったことを子どもたちに聞くと、ピンポイントであったり、部分的な言葉になってしまったりして、そのようなところを教師が援助して、一つのわかりやすい形にフォローしていることが多い。そのようにすることで、子どもたちは自分の発した言葉には「そのような意味だったのか」と自覚できるし、最終的には今日の発表の中にあつた「自己肯定感」につながっていくのかと思って伺っていた。
委員長	他の委員は「自分の言葉でとめる」ことや「学び合い」ついていかがか。
委員	昨日読んだ本で思い出したのだが、職場の先輩が会社を辞めるというので、後輩が今までのお礼を伝えたら、その先輩は「自分は人に教えてもらうより、お前に教えた時の方が自分は成長できたんだよ」という話を思い出した。やはり、教えてもらうより、自分が教えるというのは、わかっていてこそ、理解してこそのことなので、それを教えるというのは、本当に自分で自分を認めるということもできるだろう。先ほどの発表の中にあつた「考えていろいろ話せるからよい」や「友達の意見が聞けるからよい」「教えてもらうとできるから教え合いはよい」という子どもの言葉が書かれたものを読んで、教えることができるということは、自分が分かるということと同じだと思うので、そのような体験を子どもたちにしてほしいと思う。

委員長	<p>大変よい意見をいただいて、「学習のまとめをする」と同時に「学び合い」で言葉以上のものを子どもたちは学んでいると思う。そのようなコミュニケーションにも関わると、様々なお話をいただいた。家庭における家庭学習や家読（うちどく）の実践について、もっともっと広げたい。ノーメディアで生み出した時間を家読の実践化につなげていくためには、どうしたらよいかという観点で、少し話をいただきたい。</p>
委員	<p>家読の取組が4割くらいということで残念な結果だったと思うが、まだ始まったばかりの取組で、急に本をたくさん読むということは難しい。継続していくことが大事だと思う。所沢図書館では「本は楽しい」ということを伝えていきたい。保護者など大人への啓発と、小中学校等と連携して啓発していくことを引き続き行っていきたい。保護者等への啓発としては、今年度は家庭教育学級や小学校で読み聞かせボランティアをされている団体への出前講座等で読み聞かせや読書の大切さについて話をさせていただいた。また、読み聞かせボランティア講座等も行っている。さらに、小中学校との連携事業として、本の楽しさを伝えるブックトーク等も以前から行っている。学校団体貸出とあって、国語等の教科書教材等に関係する作品や、学級文庫のための本を学校の求めに応じて、学校図書館で不足している分を図書館から貸出するサービスを行っている。総じて本を充実させていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>ありがとう。今後も継続をお願いしたい。先ほどの事務局の報告で、「早寝・早起き・朝ごはん」も定着しているようなデータが出ていたが、この件について意見を伺う。</p>
委員	<p>朝食は全国的に見ても、「食べている」という子が9割いる。今までは食べていなかった子が、何かしら食べるということで割合が増えてきた。普段食べている子は多いけれど、牛乳一杯だったり、パンだけだったりする子もいる。今後は、朝食の内容も考えていく必要がある。保健給食課では、「食育フォーラム」ということで講師を招き、体力・学力・気力の向上は、生活習慣の立て直しからと講演していただいた。また、保護者へも広めていく活動も行っている。朝食の内容として、給食だよりの裏には必ず年に一回、朝食は簡単に作れるというようなヒント等を掲載している。そのような活動を地道にしていき、子どもたちに朝食の大切さ、そして朝食は温かいものであるということを伝えていきたい。温かいものを体の中に入れるということは、心が温まるということにもつながるので、朝食についても、ただ食べるということではなくて、内容についても考えることにつなげていきたい。</p>
委員長	<p>これはよい取組なので、今後も続けてほしい。他の委員はいかがか。</p>
委員	<p>健康づくり支援課では、小学校より下の乳幼児を対象にしているのだが、まずは小学校へ上がる前にきちんと生活習慣を身に付けていただくことを目標にしている。一歳半検診、三歳時検診等でちらしを配ったり、啓発事業をしたりしている。「食べて、動いて、よく寝よう」という働きかけは、一番大事なことであると思うので、まずは体をしっかりつくるということをさせたいと考えている。朝食の方も、私たちは「食育プラン」として、今年度のアンケートを保護者や五歳児の方にも行った。</p>

	そこで、「食べている」は90%以上の数字が得られたが、やはり学校と同じように内容のところまで聞けなかったが、充実という面で今後考えていきたい。
委員長	他の委員はいかがか。
委員	私事ではあるが、夕飯を食べるときには家族でテレビは見ないことにしている。その日学校であったことや職場であったこと等を話す時間にしたいと思い、目的をもってそのようにしている。この話をしたのは、ノーメディアチャレンジについて、目的がしっかりしなかったり、なぜやるのかを押さえたりしないと、ただの我慢大会になってしまう気がする。ノーメディアに取り組んだ時間を、家庭学習や家読にあてるという大きな目標があるので、児童生徒に理解させたうえで、ノーメディアに取り組ませないと、なかなか浸透していかないのではないかと。もう一点は家読についてである。ある学校では実践化が進まないということであったが、別の学校で、「先生方のおすすめの本」を紹介し、図書館におくことで、借りようとしても、その本がないという状態であるという話が印象的であった。身近な先生が推薦する本ということで、子どもにとっては身近に感じて本を手にとる機会になるのではないかと思う。とてもよい取組だと感じた。我が家でも本を読めと言ってもなかなか本を手にとらない。学校の先生が読んだ本を紹介していただくことが、家読につながっていくのではないかと、今日聞いていて感じた。
委員長	よい意見をいただいた。他の委員どうぞ。
委員	所沢市の児童生徒の体力の現状について、おかげさまで小学校5年生、中学校2年生の全国体力・運動能力・運動等調査については全国平均を大きく上回るような結果が出ている。これは、学校、家庭、地域での取組の成果が表れてきていると考えている。これは、あくまでも所沢市の児童生徒の平均値が件より上回ったということで、現在大きく問題になっているのは、運動する子としない子の二極化である。ノーメディアで家読がまだまだ課題であるということもあるが、「体力」「運動」といった面でも、ノーメディアのところで運動するような習慣をこれからもつけていけるように、スポーツ振興課としても対策を立てていきたい。一つは、先日の所沢のシティマラソン大会において、中学生ボランティアに、大会運営を支えていただいた。今年の募集で75名が応募した。計画して2年目であるが、昨年度は15名、今年度75名ということで増えてきている。何かをしたときの達成感や、感謝されたいと思う気持ちを味わいたいのだろう。家読に関しても、自分で読んだら楽しかったという気持ちを持たせてあげられるような取組ができたら増えていくのではないかと。
委員長	ありがとう。これまでのことで、感じたことをうかがう。
委員	「子どもの言葉で学習のまとめをする」について、委員から話が合ったように、教えることができるということは、先ほど委員長が述べたとおり、自分の頭の中で学習した内容を構造化できるということにつながると考える。他の委員の発言にあったように、小グループの学習を取り入れている学校もあり、今後、具体的に広めていくと子どもたちの言葉で授業が成り立っていくのではないかと思った。貴重な意見をあり



	がとう。
委員長	他の委員はいかがか。付け足しでもよいので願います。
委員	本日、それぞれの学校がプレゼンで発表したが、非常に内容の濃い発表を展開してくれたと思う。自分の立場として「うちの学校ももっとやらなければ。」「これも抜けていた、うちの学校は。」「これもやらなければ。」ということが、今日の発表を聞いていて、たくさんあった。また、今ここでそれぞれの立場の方の話を聞いて、「そうか、この観点はうちには抜けていたな」ということも多々あった。いただいた意見を学校へ持ち帰り、機会を捉えて市内の小学校長へ伝えていきたいと思った。
委員長	<p>2月にフィンランドへ行ってきた。フィンランドは御存じのとおり、生徒の学習到達度調査「PISA」で、ずっとトップを走っていた国である。今は少し下がってきているようであるが、なぜ注目されたのかということである。学校で勉強している時間は長くない。先生も3時くらいには帰宅する。このような状況にもかかわらず、特に読解力等については、高いレベルと注目されている。向こうの文化庁の方と話をして気付いたことは、「児童生徒の言葉で学習のまとめをする」ことであった。同時に、日本の今までの教育は準備のための教育であった。小学校は中学校に入るため、中学校は高等学校に入るため、我慢して受験勉強をするというような世界であった。準備だけの教育だと少し力が入らない。もちろん、準備も必要なのだが、そこで私が感じたのは、準備ではなくて「今」の教育である。今課題がある、今ここに問題がある、今課題があるからこれを解決するための教育で、そして自分たちの言葉でそれを表現していくというスタイルを見て、21世紀型の能力とは、そんな発信型の能力を養わなければいけないと感じた。できたら、思考力、判断力、表現力である。記憶したものはすぐに忘れてしまうが、このような能力を育成しようという考え方であったと思う。デジカメで写真を撮ることについての話は、その真意は「今」ということである。今気づいた、今重要だと思った、ということをお願いしたいという思いで話をした。</p> <p>本日いただいた意見をまとめていただいて、できたら項目ごとにまとめていただきたい。</p>
司会	教育長より謝辞を申し上げる。
教育長	それぞれ含蓄のある話をいただいた。なんとなく思っていたことが、しっかり指摘され勉強になった。今回の協議内容は事務局でまとめ、いろいろな機会伝えながら各学校にしっかり受け止めてもらえるように取り組んでまいりたい。本日は貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。
司会	<p>本日、手元に新聞記事を配布させていただいた。委員長が講演された学校図書館元気フォーラムの記事である。デジタル、アナログの使い分けについてわかりやすく話していただいているものである。後ほど御覧いただきたい。</p> <p>以上で閉会とする。</p>